

授業科目名: 哲学・倫理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 西巻 文児 担当形態: 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
「学位授与の方針」との関係 DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)			
授業のテーマ及び到達目標 哲学とは一体何なのか。どのような問題を扱ってきたのか、それをどのように考えてきたのか、また、どのように考えたらいいのかを、みずから考えるという、哲学的な思考法を身につけることができる。また、倫理学で論じられる主要な問題をとりあげ、その問題がどのように考えられてきたのかを、代表的な倫理学者の見解を踏まえながら、倫理的な諸問題を考察していき、倫理学・道徳の諸問題を自分の身近な問題として考えることができる。			
授業の概要 「自分ってなんだろう?」「よく生きるためにはどうすればよいだろう?」・・・結局のところ「人間とはなんだろう?」。あなたもこれらの事柄を、少なからず考えたことがあるのではないだろうか。実はこのような問いは古代から考えられており、現在までさまざまな「哲学者」と呼ばれる人たちが、これらの問いに対する答えを提示してきました。この授業では、「知ること」、「実践すること」を中心にして、それぞれの哲学者・倫理学者たちが歩んできた思索の道をたどり、哲学的・倫理的な諸問題を考えていきます。			
授業計画 第1回:哲学的な問いの次元(1) -日常生活のどこにでもある哲学の諸問題- 第2回:哲学的な問いの次元(2) -<私>は何を知ることができるのか- 第3回:客観とは何か -ありのままの姿とは- 第4回:存在の追求(1) -客観と実体という考え方について- 第5回:存在の追求(2) -実体という考え方について- 第6回:存在の追求(3) -実体を問題にせざるをえない人間- 第7回:実体から主観へ -根拠の根拠としての主観1- 第8回:主観とは何か -根拠の根拠としての主観2- 第9回:意識とは何か -根拠の根拠としての主観3- 第10回:存在とは何か -根拠の根拠としての主観4- 第11回:哲学的な問いの次元(3) -<私>は何をなすべきなのか- 第12回:自由とは何か -自由の諸相について- 第13回:自由の諸相(1) -意志の自由について- 第14回:自由の諸相(2) -社会的自由について- 第15回:まとめ 科目修得試験			
スクーリングでの学修 スクーリングではすべての内容について包括的に取り上げる。			
テキスト 伊藤邦武(2012)『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』中公新書			
参考書・参考資料等 熊野純彦(2006)『西洋哲学史-古代から中世へ』岩波新書 熊野純彦(2006)『西洋哲学史-近代から現代へ』岩波新書 樫山欽四郎(1964)『哲学概説』創文社			
学生に対する評価 スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)			